

研究主題 中学校道徳科における評価の在り方に関する研究

－認め、励ます評価に生かす自己評価の分析を通して－

【研究担当者】 長期研修生 軽石 邦子

(所属校 盛岡市立下橋中学校)

【この研究に対する問い合わせ先】

TEL 0198-27-2735 FAX 0198-27-3562

E-mail kyouka-r@center.iwate-ed.jp

1 はじめに

道徳教育の充実を目指した中学校における「特別の教科 道徳」が平成 31 年度から全面実施されることに伴い、道徳科における評価の重要性が示されました。本研究では、認め、励ます評価に生かす自己評価の分析方法について研究し、人間としての生き方についての考えを深め、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うための中学校道徳科における評価に効果的に活用する方法を提案します。

2 道徳科の評価の考え方

中学校道徳科における評価は、大きくりなまとまりの中で、生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握し、一人一人が授業を通じていかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価を記述式で行うことが求められています。

実際に評価を進めていく場合、多様な評価方法によって生徒一人一人の学びを計画的、丁寧に見取って蓄積し、それらを組み合わせることで、よりの確な評価になると考えます。その際、生徒が自己や人間としての生き方を見つめ、大切な道徳的価値について学び続けていくよう、生徒のよき学びのための評価であることを念頭において記述を行うことが大切です。

【多様な評価方法の例】

- 学習活動の様子の観察
- 記述による記録物からの見取り
- 生徒による1 単位時間の自己評価の活用
- 生徒による一定期間のまとめ自己評価の活用
- 他の教師による評価の活用
- 生徒アンケートの活用

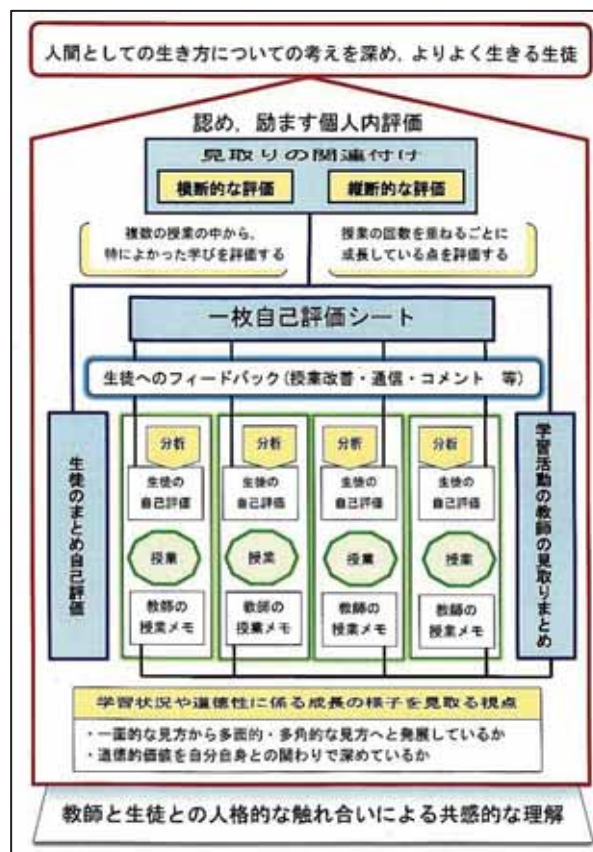
3 生徒による自己評価を生かした評価

多様な評価方法の中でも、道徳科における評価の意義、「生徒のよさを引き出し、評価する」ことに対

し、生徒による自己評価を手掛かりの一つにすることは、個人内評価に有効であると考えました。生徒の受け止めや思いを生かし、温かく共感的な姿勢をもって評価を行い、豊かな人間性育成の第一歩につなげていきたいと思ひます。

また、生徒による自己評価自体は学習活動でありますので、道徳の評価に直接転用せず、書かれた自己評価については、教師が評価の参考として活用します。評価を行い、生徒が本時のねらいにどこまで迫ることができたのか捉え、指導改善にも役立て、さらによりよい道徳科の授業につなげていきたいものです。

【研究構想図】



4 生徒による自己評価の分析の必要性

教師は、生徒との温かな人格的な触れ合いに基づいて、自己評価の背景にあるものを読み取っていきたいものです。また、生徒の自己評価が消極的であっても、それを受け止めて励ましながら次の学びにつながるような評価のための分析を行う必要があると考えます。

そこで、生徒による自己評価を次の表の①～⑦の視点で分析することとしました。

【記述自己評価分析表】 1 単位時間における評価

	参考 1	参考 2	参考 3
一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発 展している	① 道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠や心情を様々な視点から捉え考えようとしている		
	道徳的価値に関わる問題について、登場人物の心や状況を多様な角度から捉え、価値の大切さを感じている	道徳的価値に関わる問題について、登場人物の心や状況を多様な角度から捉え考えている	(教材を通して) 新しい発見を得たと感じている
	② 自分と違う立場や考え方、感じ方を理解しようとしている		
	道徳的価値(の実現)には、多様な考え方・感じ方があることを理解し、自分の考えを更に広げている	道徳的価値(の実現)には、多様な考え方・感じ方があることを理解している	(教材を通して)多様な考え方があることに気付いている
	③ 複数の道徳的価値の対立する場面において取り得る行動を広い視野から多面的・多角的に考えようとしている		
	複数の道徳的価値が対立した場合の判断や行動を様々な視点で捉え、根拠を明確にして現実と結びつけて考えている	複数の道徳的価値が対立した場合の判断や行動を様々な視点で捉え、根拠を明確にして考えている	複数の道徳的価値が対立した場合の判断や行動について考えている
道徳的価値を自分自身との関わりで深めている	④ 登場人物を自分に置き換えて考え、具体的にイメージして理解しようとしている		
	登場人物を自分に重ね、人物に寄り添いながら道徳的価値についての理解を深めている	登場人物を自分に重ね、道徳的価値について考えている	登場人物を自分に重ね、(教材について)考えようとしている
	⑤ 現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直している		
	道徳的価値に関し、これまでの自分を見直し、これからの生活や生き方の目標や課題を考えている	道徳的価値に関し、これまでの自分はどうかだったか見直している	(教材を通して)これからの自分の生活や生き方への目標や課題について考えている
	⑥ 道徳的な問題に対して自己の取り得る行動を他者と議論する中で、道徳的価値の理解を更に深めている		
	道徳的な問題に対しての自分の行動を予想し、仲間との議論で価値の理解を深め、大切さを感じている	道徳的な問題に対しての自分の行動を予想し、仲間との議論で価値の理解を更に深めている	仲間との議論を通して、自分の考えを深めることができたと感じている
	⑦ 道徳的価値を実現することの難しさを自分のこととして捉え考えようとしている		
実現が難しい道徳的価値でも、必要なことと感じ、どう自分でありたいか考えている	自分や日常生活と重ね、実現が難しい道徳的価値だが大切であると考えている	自分や日常生活と重ね、(教材中の)課題の実現の難しさを感じている	

●「参考1～3」は、生徒による選択式自己評価の観点を基準としたもので、本時のねらいどこまで迫ることができたのか段階を追って整理しました。

生徒の記述自己評価

分析内容

「わたしのせいじゃない」

1 主題名 安心して暮らせる社会の第一歩について考える [C-11 公正, 公平, 社会正義]

2 ねらい 人々が安心して暮らせる公平で平和な世界を願い、進んでその実現に努めようとする心情を養う。

今日の授業で、見て見ぬふりをしたり、勇気がないからと言って行動にうつさないのは悪いと思いました。でも、**実際、自分と重ね合わせて考えてみたら、私も同じようなことをしているんじゃないかと考えました。**これからは、社会で起こっている問題や身近で起こっている出来事に**しっかりと関心をもち、自分がどうしたら良いのか考えていきたいです。**

文章化せずに簡略化して把握しておくことも可能です。

⑤(参考1)

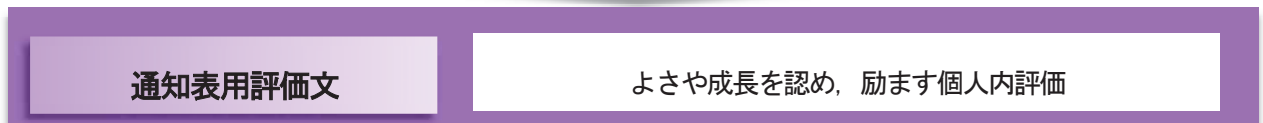
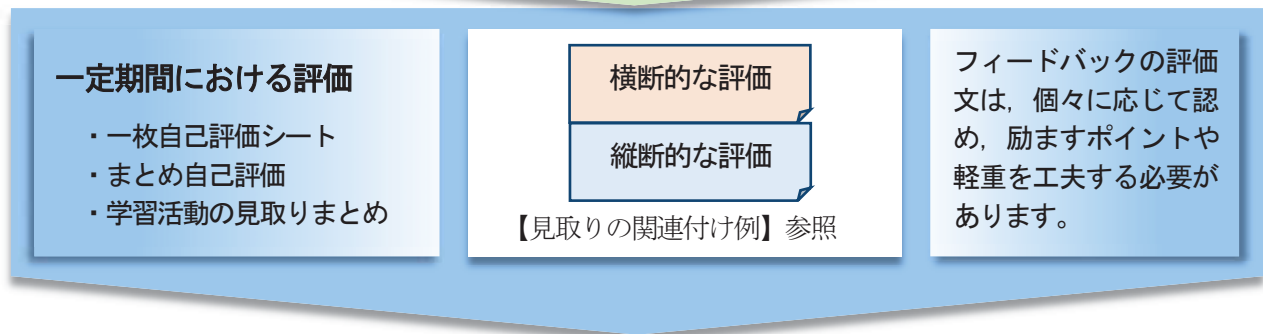
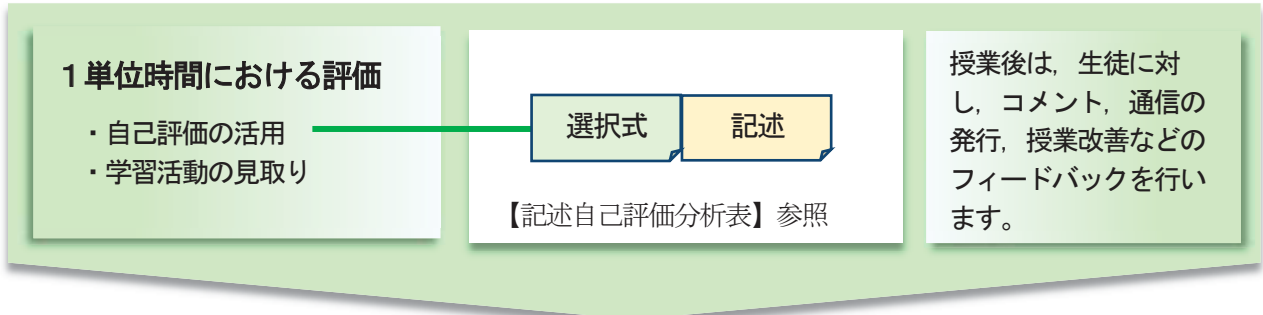
公正, 公平, 社会正義に関し、これまでの自分を見直し、これからの生活や生き方の目標や課題を考えている。

5 評価材料の活用の手立て

評価に活用する自己評価の方法・場面について、1単位時間における評価、一定期間における評価を設定しました。

また、道徳科における評価は、学習活動の様子を評価しますので、教師は授業中の生徒の学習の様子を観察、把握しておくことも大切です。

【自己評価の活用を中心とした評価の手順】



【評価のための自己評価シート例】

● 中長期的な定着や成長を見取ります。

● 一枚自己評価シート

<授業①>

1 テーマ:

【前】(テーマ)についてのあなたの考え、思い、イメージを書きましょう。

【後】今日の学習で感じたこと、考えたことを書きましょう。

心に残ったフレーズ

●学習を通して今の自分にあってはまるもの目をつけてください。

①今日のテーマを通して新しい発見があった

②自分の考えが自分の考えを固めることになった

③授業を通していろいろな考え方を学ぶことができた

④学習人物と自分を重ねて考えてみた

⑤これからの自分の成長や未来への目標が明確になった

先生から:

1 単位時間の自己評価 × 6 回

(シート1)

(シート2)

(シート3)

(シート4)

(シート5)

(シート6)

● まとめ自己評価シート(質問項目)

- もっとも自分の考え方・判断に影響があったと思った授業
- もっとも自分の考えが広がったと思った授業
- もっとも自分のこれからの生かしていこうと思った授業
- この期間を通して、道徳の授業をどう感じましたか



6 見取りの関連付け

個人内評価として記述するために、以下の方法で見取ったことを関連付け、評価文を作成しました。

【見取りの関連付け例と実際の評価文】 一定期間における評価

横断的な評価	
複数の授業の中で特によかった学びを取り上げて評価を行う。(～できました)	
○ a では、 b から、 c することができたことがうかがえました。	「わたしのせいじゃない」の授業では、振り返りの記述や授業中の発言から、安心して暮らせる社会について捉え方を広げ、世界的なレベルで公正、公平、社会正義の大切さを理解できたことがうかがえました。
○ a では、 c し、さらに c2 を b することができました。	「わたしのせいじゃない」の授業では、安心して暮らせる社会の実現には多様な考え方があることを踏まえ、さらに、公正、公平、社会正義を自分の生き方と関わらせて振り返りに書くことができました。
縦断的な評価	
授業を重ねるごとに成長している点について評価を行う。(～なりました、～きました)	
○道徳の授業では、 d していました。また、 e 様子が b に表れてきました。	道徳の授業では、じっくりとテキストに向き合っていました。また、道徳の学習で新たに知り得たことに加え、自分自身と関わらせてテーマについて考えている様子が振り返りの記述の内容に表れてきました。
○毎時間の道徳では、 d を b し、 e することができました。学習後は e2 になりました。	毎時間の道徳の授業では、テーマに関して多様な考えを受け止めながら交流し、自分の考えを広げていくことができました。学習後は、学んだことが自分の人生とも関わってくることに気づくようになりました。

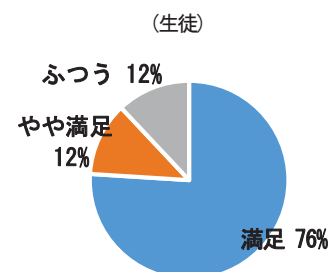
- a 教材名もしくは内容項目
- b 学習活動の例(グループの話合い・発表・振り返りの記入 等)
- c 記述自己評価分析
- d 学習活動分析の例(話し手に注目し、仲間の意見に耳を傾けている 等)
- e 見取る視点の例(多様な視点で考える・自分自身を見つめ直す 等)



7 研究のまとめ(成果)

- 毎時間の自己評価のやり方が決まっていることで、生徒にとってはスムーズに取りかかることができ、教師にとっては生徒の学びや成長を比較・把握しやすくなることになりました。
- まとめ自己評価(一定期間後の自己評価)を行うことで、生徒にとってはさらに学び直しができ、教師にとっても1単位時間では見取ることができなかった生徒のよさを改めて発見できることになりました。

評価の施行を受けての意識



研究報告書と補助資料は下記の岩手県立総合教育センターのWebページに掲載しております。
詳しい研究内容や授業実践例(学習指導案や学習シート・評価シート)等を見ることができます。

<http://www1.iwate-ed.jp/kenkyu/h09~/index.html>